

ひきやま
長浜 曳山まつり
4月9日(木)～17日(金)

今年の出番山と子ども歌舞伎の外題

ほうおうざん 鳳凰山 (祝町組)	か な て ほんちゆうしんぐら 仮名手本忠臣蔵
たかさござん 高砂山 (宮町組)	くだんめ やましなかんきょ 九段目山科閑居の場
しょうじょうまる 猩々丸 (舟町組)	かみみやまこさようのにしきえ 加賀見山田錦絵
ことぶきざん 壽山 (大手町組)	しないう おくにわあだう 竹刀打ちから奥庭仇討ちの場
	すがわらでんじつてならいかのみ 菅原伝授手習鑑 車引
	なるかみ 鳴神



▶ 昨年の曳山まつりから

今年の三番叟は

植田光輝くん
(長浜小4年・八幡東町)



市内の小学3～5年生の男子を対象に募集される三番叟役者。その三番叟役者を決める矢籤の神事が、長濱八幡宮で行われました。

今年は過去最多の7人が参加。植田光輝くんが、先端に赤い印のついた当たりくじ(矢)を引き当てました。子ども歌舞伎の開演を祝う大役を引き当てた植田くんは、「当たってうれしい。本番に向けてがんばりたい」と意気込みを語ってくれました。

曳山祭の主な行事

9日(木)	13日(月)	12日(日)	9～12日(木～日)	14日(火)
線香番 18時頃から 各山組稽古場	御幣迎え 7時 長濱八幡宮	神輿渡御 18時30分 長濱八幡宮(御旅所)	裸参り 20時頃から 山組町内(長濱八幡宮) 豊国神社(山組町内)	登り山 昼過ぎから 山組町内(長濱八幡宮)
夕渡り 19時から 長濱八幡宮(一八屋辻)	籤取り式 13時 長濱八幡宮	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	朝渡り 8時頃 各山組町内(長濱八幡宮)	観劇会 10時55分から 長浜文化芸術会館
朝渡り 8時頃 各山組町内(長濱八幡宮)	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	夕渡り 19時から 長濱八幡宮(一八屋辻)	御幣返し 8時 長濱八幡宮
夕渡り 19時から 長濱八幡宮(一八屋辻)	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	夕渡り 19時から 長濱八幡宮(一八屋辻)	観劇会 10時55分から 長浜文化芸術会館
夕渡り 19時から 長濱八幡宮(一八屋辻)	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	子ども歌舞伎 18時頃から 各山組町内	夕渡り 19時から 長濱八幡宮(一八屋辻)	観劇会 10時55分から 長浜文化芸術会館

本日(15日)の子ども歌舞伎開演場所

山組	御旅所	長濱八幡宮	八幡宮
1番山 16:05	16:10	15:25	9:55
2番山 17:20	14:10	16:20	11:10
3番山 18:30	15:25	17:30	12:20
4番山 19:40	14:10	17:30	13:30

子ども歌舞伎観劇会
観覧券発売中

4月16日(木)に長浜文化芸術会館で演じられる子ども歌舞伎を一番山から四番山までじっくりと観賞できます。
【料金】2,000円/人

問(公社)長浜観光協会
(☎65-6521)

問 長浜曳山祭フォトコンテスト実行委員会事務局(長浜観光協会内) (☎65-6521)
http://pht.nagahama-hikiyama.or.jp/

※応募はすべてサイト上からとなります。メールや直接送付などでは受付できませんのでご注意ください。詳しくは、長浜曳山まつりフォトサイトへ。
http://pht.nagahama-hikiyama.or.jp/

▼金賞 賞金5万円
銀・銅賞 地域特産品

▼対象 なたでも
▼募集期間 4月4日(土)～5月10日(日)

▼募集題材 平成27年度 長浜曳山まつり

4月4日(土)～17日(金)に撮影された長浜曳山まつりの写真と、それにまつわる思い出やエピソード、コメントを募集します。

フォトサイト
作品募集

問 長浜城歴史博物館
(☎63-4611)

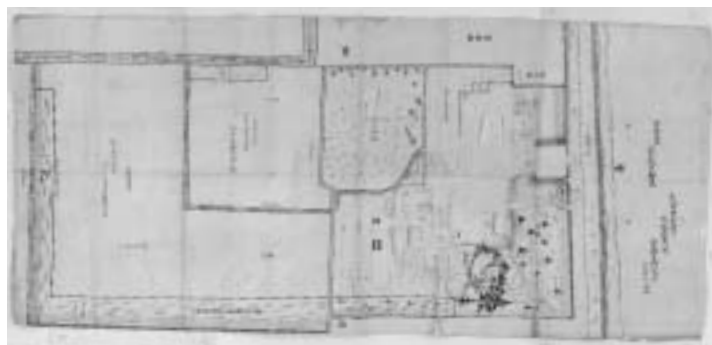


▲浅井長政書状 垣見助左衛門尉宛

浅井家滅亡後は武士の道は選ばず、宮川村の地主・郷士格の百姓として、地域で大きな影響力を持ちました。江戸時代の垣見家にとって、一つの転機になったのは、元禄11年(1698)に、堀田正休が近江国内に一万石の所領を得て、その政庁を宮川村の垣見家の東隣に構えたことでした。これを宮川陣屋と呼びます。宮川藩堀田氏は、「在府大名」として江戸詰めが多く、政庁がある宮川に置いた家臣は少なかったため、垣見

家は領内の政治・裁判などに関わることとなります。江戸後期には、宮川藩内で「世話方」と呼ばれていた。垣見家に伝来した「垣見家文書」は、巻子3巻、一枚もの456通、冊子363冊、絵図8枚などから構成されており、戦国時代から明治初期の垣見家や地域の情勢を読み解くことができます。その中で特に貴重なのは、文政8年(1825)に成された巻子です。

ここには、文明3年(1471)8月の坂田庄公文職補任状を最古として、浅井家2代目久政の書状が2通、3代目長政の書状が4通も収められています。この長政文書の内、元亀4年(1573)8月18日の書状は、垣見家の先祖・助左衛門尉に対して、信長側へ寝返った家臣の所領を与えたものです。本書は、小谷城で長政が自刃する13日前のもの



▲垣見助左衛門屋敷絵図

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、447件※ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

※平成27年1月1日現在

長浜市指定文化財
有形文化財(書跡)
「垣見家文書」843点

答申年月日 平成14年7月1日
所有者 個人(長浜城歴史博物館寄託)

垣見家は神崎郡垣見村(現在の東近江市垣見町)の出身ですが、室町中期までには坂田郡宮川村(現在の長浜市宮司町)に居住した地侍でした。戦国時代に入る頃には、宮川村付近を庄域とした青蓮院門跡領坂田庄(楞嚴院庄)の公文職という役職を務めていたことが知られ、戦国大名浅井家が台頭すると、その家臣となります。

家領内の政治・裁判などに関わることとなります。江戸後期には、宮川藩内で「世話方」と呼ばれていた。垣見家に伝来した「垣見家文書」は、巻子3巻、一枚もの456通、冊子363冊、絵図8枚などから構成されており、戦国時代から明治初期の垣見家や地域の情勢を読み解くことができます。その中で特に貴重なのは、文政8年(1825)に成された巻子です。

最終段階まで、小谷城内で働いていた事実が読みとれます。

この他、江戸中期の宮川村の絵図「坂田郡宮川村郷絵図」や、戦国時代の地侍館の典型として、現在調査が行われている垣見家の屋敷地を描いた、文化4年(1807)の「垣見助左衛門屋敷絵図」などが注目されます。